

## 答 辞

厳しい寒さが残りつつも、陽ざしに暖かさを感じられ、春の香りが漂い始める季節となりました。本日は、私たちのために素晴らしい卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、ご多用の中、私たちのためにご臨席くださいました皆さまへ心より感謝申し上げます。私たちはこれまで、たくさんの方々に支えられてきたのだと、この佳き日を迎える身に染みて実感しております。

さて、今日まで共に過ごし、共にこの学び舎を旅立つ卒業生の皆さん、今何を思っていますか。私は卒業を目の前にして一番に、「時が過ぎるのは早かった」と思いました。きっと皆さんも同じ気持ちでしょう。入学した時、卒業はもっと遠い未来だと思っていました。

高校三年間を振り返ると、たくさんの思い出が蘇ってきます。私たちが一年生の時には、三年に一度の旭陵祭がありました。ステージ発表や公開文化祭に向けての各クラスの出し物のために、多くの時間を費やしました。絵の具を使ってふざけ合ったり、皆で楽しむために衣装を揃えたり、入学したばかりであり話したことの無いクラスメートと親睦を深め、かけがえのない思い出を作ることが出来ました。三年に一度の貴重な旭陵祭をあの時のクラスメートと過ごしたことで、クラス替えが悲しくなってしまったことも、今となっては良い思い出です。

毎年開催の体育祭では、クラス一丸となって優勝を目指しました。特に最後の体育祭では、新競技として加わった男子バレーや女子ドッジボールなどで大いに盛り上がり、数々の思い出を写真に残すことができました。今年度は全校生徒参加型の垂れ幕「千紫万紅」を策じたことで、各クラスだけではなく、全校生が一致団結した体育祭を催すことができました。青空を彩った色とりどりの花々は、生涯忘れることのない大切な景色です。

そして高校最後の遠足では、東京ディズニーシーに行くことができました。修学旅行へ行けなかった私たちのために、先生方がチケットやその他の準備を進めてくださったおかげで実現した遠足は、私たちの高校生活における最高の思い出となりました。帰りたくない気持ちを我慢してバスに乗り込んだのは、まだ皆さんの記憶に新しいことでしょう。

私たちの学年は、旭陵祭が台風の影響で規模の縮小に追い込まれたり、新型コロナウイルスの影響で修学旅行や各大会などの様々な行事が中止となったりしました。もっと作りたかった思い出が、見たかった景色があったことも事実です。きっと悔しい思いをしている生徒も少なくはないでしょう。部活動で練習に励んだ日々の努力や、高校生のうちに友人と一緒に行きたかった所を想うと、切なさを感じずにはいられません。けれど思い返せばたくさんの思い出が、この校舎には詰まっています。クラスメートと学び教えあった教室、休み時間になれば自販機や購買部へと急いだ廊下、部活や進路に友達と勉強した図書室、汗を流し部活に励んだ体育館。教室の窓さえ見てとっても、誰かとの記憶が蘇ります。私たちはかけがえのない三年間を、この校舎で過ごしました。奪われた思い出があるのなら、残された思い出を振り返りましょう。私たちはきっと、この先生きていく人生の中でも最高の思

い出だったと言い切れる、そんな青春の数ページをこの校舎で過ごしてきたはずです。

そして、在校生の皆さんも同じ青春の道を辿ることでしょう。私たちは卒業生として、在校生の皆さんの目標となれるよう、新しい場所でも努力を怠らずに走り続けます。歴史ある須賀川高校最後の卒業生として、有終の美を飾れるこの名誉を、光栄に思っております。時間が過ぎるのは皆さんが思っているよりも早いものです。後悔のない、楽しかったと思い返せる高校生活を送ってください。

来年度から須賀川高校は新しい門出を迎え、須賀川創英館高校としての歴史をスタートさせます。在校生の皆さんが、須賀川高校の良き文化や歴史を残し、また時代に合わせた素晴らしい高校を創ってくださることを願っています。新たな道を歩んでいくうえで、不安や辛さを抱えることもあるかもしれません。また私たち卒業生もこれから新しい生活が始まり、多くの経験を重ねる中で、大きな壁にぶつかることもあるでしょう。その時のために、皆さんには今のうちから自分を奮い立たせる言葉や詩を決めておいて欲しいのです。

私は茨木のり子さんの「自分の感受性くらい」という詩を、自分で思い返す人生の詩として大切にしています。その中の一説に、このような言葉があります。

「駄目なことの一切を時代のせいにはするな」

上手くいかなかったことの原因を時代や環境、自分以外のものに置き換えてはいけないと厳しく言い放つこの言葉を思い出すと、自分の心が再び燃え上がり、もっと成長できる、と自分を信じることができるのです。言葉の力は時に、私たちが思っている以上の勇気を与えてくれる魔法です。自分を元気づける魔法の言葉を、常に心にしまっていてください。

私たちは須賀川高校というこの学び舎で、この先の人生も共に歩むのだらうと思える大切な仲間と出会うことができました。これからも他人を思いやる心を常に持ち、雨の降る日でも虹を見つけるために、希望ある明日を見上げ続けていきます。そして、それぞれの道へと歩いていき、須賀川高校で培った経験、学びを活かし、自分たちの未来のために進んでいくことを、卒業生を代表してここに誓います。

結びに、統合校となる須賀川創英館高等学校のご発展を心からお祈り申し上げ、答辞いたします。

令和四年三月一日

福島県立須賀川高等学校 卒業生代表